
いつしかの自分

コロニー犬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつしかの自分

【Nコード】

N4884D

【作者名】

コロニー犬

【あらすじ】

ある日の夜、十五夜の月が昇るとき、夢の中で声だけの人と会った。その日から雅紘は、自分の身や、自分と接する世界が、少しずつ変化することに気づきはじめた。

闇との取引

闇。まったく何もない闇があつた。しかし、その闇は、古い闇のようだった。・・・闇は困っていた。このまま新しい闇が生まれないと、闇は消滅してしまうからだつた。しかし、古い闇は気づかなかった。その闇が気づかない、奥のそのまた奥に新しく、闇がうまれようとしているのに・・・

「なんだここ・・・？・・・なんか暗い・・・？ 自分の手足はみえるのに・・・。??」

自分の手足・・・？ 周りは闇なのに、なぜだ。？・・・そうか、これは夢だ。確かここに来る前に、疲れていてすぐに寝ちつたんだっけ。・・・あれ？・・・夢の中にはよく覚えているよな。・・・ Why?

「・・・見つけたぜ・・・」

「?!」

いきなり声が聞こえた。まるで頭の中で響くかのように。

「・・・ここに入ってくるとは。クク。いいだろう。チカラを与えてやる。」

「なんのことだ・・・ お前は誰だ！」

「・・・直にわかるさ・・・ お前にとつても、オレにとつても、このことは「よい」ことだからな・・・。」

「どういうことだ。説明しろ！」

「まあそうカッ力するな・・・。また後で会おうぜ。・・・雅紘。」

「!!。なぜお前が俺の名前を・・・。」

その時、闇の中から閃光が出てきた。あまりのまぶしさに目をつぶると、光は俺を包み込むように大きくなっていった。

そして、徐々に俺の意識が薄れていった。

つづく。。

闇との取引（後書き）

こんにちは。コロニー犬です。念願の小説投稿できてうれしいです。初心者ですが、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4884d/>

いつしかの自分

2010年11月5日07時30分発行